

再生塔婆は悪いことだ

廣田 頼道

自身の反省と懺悔、自戒を込めてこのことを示します。

私が高校時代在勤していた京都の平安寺も、春・秋の彼岸、盂蘭盆、そして日々の願い出の塔婆供養の寺置きものは、全て供養の終わったものから、裏表を削り、再生して又使用するということをしていました。外部に再生の仕事を頼まず、在勤者のアルバイトとして玄関の階段下を作業場として、寺院内でやっています。

太学時代在勤の法道院では、あまりにも塔婆の建立数が多い為か、「富士木工」という塔婆専門製作所が、彼岸御盆の直後に直接トラックで寺置きの塔婆を取りに来て、再生したものを、又トラックで運んで来るといふ状態でした。

大石寺では、小僧の時には昼間は学校に通っていませんので分りませんでした、大学を終って所化と

して在勤して法務についてみると、毎日登山者が塔婆室で申し込む塔婆を、私が塔婆室の番役として前年者並に塔婆室の役僧に指示されて行っていた時点では、「渡会工務店」に取りに来てもらって削ってもらい、又再生されたものを運んでもらうということをしていました。大工さんの合い間仕事にしていたのだと思います。

徳島の敬台寺でも塔婆屋に削ってもらっていました。

これらは、私の実際に見て来た寺院を例にあげているだけであって、実際には全国の日蓮正宗の寺院は百%近く、何十年にも渡って当然の如くやっていることなのであります。ここで百%近くというのは、私の知る限りにおいて、どういう理由と主張かは尋ねたことがないので分りませんが三ヶ寺だけ一切再生塔婆は使用しない寺院がある為、この様に書きました。

又、間接的に見聞した寺院の中で特筆すべきは、三回しか削れない所を、六回削る為に、塔婆の表だけ書いて裏の志主名を書かない。手間もかからなしいし再生も楽で倍の回数再生出来る。

又、削る必要もなく、毎月一日の御経日に常連の様に毎月塔婆を建立する人の塔婆の裏の年月日は書かないで志主名だけは書いておいて、寺置き塔婆を保存しておいて、次の月の一日に、又それを建てるという寺院もありました。これなどは再生塔婆を使用する人間以前の詐欺だと思えます。

そして私も、最後の二例は論外ですが、それらの寺院に在勤し、法務に携わって来て、再生が悪いことだと露ほども考えず、あたり前のことだと思つて、自分もこの三寶院のはじめから行って来ました。しかし、一九九六年に、ある御信者に出合いました。

「三寶院でも塔婆を削ってるんですか。私の所属している寺は、正信会であるにもかかわらず塔婆を二回、三回と削って使ってるんです、おかしいじゃないですか。」

住職はみんなやっていることだ、自然資源を大切に守ることだと言っていますが、塔婆は御信者さんの御供養で建立して、たまたま御墓が無いとか、御墓参り出来ないとかの理由で寺に置いて行ったものを、

削って新品のような顔をして、又同額の御供養を受取って使う。

最近、今迄千円の塔婆代が二千円になりました。私は、父が昔塔婆を作る仕事をしていたので分るのですが、塔婆は間引きの間伐材を材料にして作るもので、自然保護を主張するものではなく、値段もほとんどが塔婆を作る為の手間賃です。現代の相場でも一本五百円もしないでしょ、削っても削賃一本百円迄はしないでしょ。

一本五百円しないものが、塔婆料として二千円払って、その上で、それは塔婆代ですから、御供養をきちんとして下さいと御寺で言われる。一本千円でも書賃を加えても法外な値段です。それを、塔婆代というならば原価迄の値下げなら理解出来ませんが、一本二千円の値上げで御供養は別に包みなさい。道理が通らないじゃないですか。

一本五百円、削り代百円として三回削ったら八百円にしかならない。

御寺というのは、仏法を説き乍、こんな常識からも、仏法からも外れたことをどこでもやってるんですか。

他人の禪で相撲をとって、それを信心の名を持ってありがたそうに見せる。どう考えても弁解の余地がないんじゃないんですか。」

と言われ、私は絶句してしまった。

今迄自分があたり前に思ってたやって来たことは一体なんだっただろう。色々反論しよう、今迄やって来た自分の生き方を正統化しようと頭の中で考えるのだが、何をどう考えても、全てが虚しく、空々しいことに冷汗が出、大変な誤りに気付いた。

言われる通り、おかしいですね。まちがってますね。私もそうして来ました。まったく考えたことがありませんでした。と、返事するしかなかった。

一九九七年の春の彼岸の塔婆の題目は、早々と再生塔婆と新品の塔婆にもう書いて準備してある状態だった。自分でもこの題目を書きためた労力と、これを処分し、新しい塔婆に同じ労力と時間をかけることを想像すると、自分は優柔不断で卑しく、狡い人間だなあと思ったが、九七年の春の彼岸を最後にして、御信者さんが御寺に残した塔婆は、全て焼却処分することにした。もう二度と再生塔婆は使用しないと決断した。

先の御信者さんにもこのことを知らせた。喜んでくれた。

その人に喜んで貰う為にしたのではない。その人に自分のやっている愚劣なことに気付かせて貰った。仏法を語るに、こういうことはふさわしくないことに気付いた、気付いた以上は治すべきだと考え、改めざるを得ないと思った。

その後、同じ様な考えの御信者さん二人に合った。一人は御寺の住職に家まで塔婆を持ってこられ削ったが、御題目の写ったカンナくずを見るたびに情け無いやら、苦しいやら、どうしようもない気持になったということを聞いた。

私もその人の話を聞き乍、情け無くなった。一九九七年の春の彼岸迄、私も同じことをやって来た、その人に正直に申し上げあやまった。

いつの時代から、こんな卑しいことが、寺院運営の常識になってしまったのか分らないが、冷静に考えれば、良いか悪いか、はっきり分ることであり、後は止める勇気を出すか出さないかだけだと思う。

都會の寺院で焼却処分が出来ないと言うならば、塔婆会社に送り、処分賃を出して処分してもらえば

良いと思う。塔婆会社も、今迄やって来た再生の削り作業は、信仰心のある人ならば、決して喜びのある仕事としてやって来たのではないと思う。

もし、再生を正しいことだと主張するならば、限りなく塔婆の再生を含めた原価の値段を塔婆代として明示し、塔婆代と御供養をきちんと立て分け、現在の塔婆供養代といい乍それだけで塔婆建立を願ひ出てはいけなような釈然としないあり方は改善すべきであります。

再生塔婆で得た利益を御寺の為、信心の為に使っているんだと主張するならば、そんな御金で御寺や信心の繁栄は無いばかりか、信心から離れる逆効果しかないと思います。(僧階も紋衣も差貫も根は同じことだと思えます。)

我々が御信者さんに一々伝えない事柄を、御信者さんが知り得たとしても、やっぱり日蓮正宗は正しいんだなあ、清廉なんだなあと、増々信仰が深まるという姿が、本来のあるべき姿だと思うのであります。

本音と建前が嘘、偽りに通じるものであったならば、これは信仰者でも僧侶でもなくなってしまうと

